

新作ビデオ

介護予防シリーズ

# 歩くことが自立の一步

～介護予防とリハビリテーション～



VHS・DVD 25分  
**26,250円**  
(税込・送料別)



## 監修の言葉

高齢者生活福祉研究所 所長  
理学療法士 **加島 守**

自立支援という言葉がよく使用されていますが、ADLが自分でできるようにということでしょうか。自立という意味は、自分でできることばかりでなく、自分がしたいことを自分なりの方法で生活をするということではないかと思います。その自分なりの生活が、歩くことによって行うことができれば、という思いは誰もが持っているのではないのでしょうか。生活範囲を広げることにより体力が落ちず、したい生活をする事で介護予防ができます。このビデオでは、障害により一時は歩行困難だった方が歩行ができるまでの経過と、歩けるようになったことで自分らしい生活を送ることができるようになったことを表現してみました。歩くことの意味を考える上でもこのビデオを参考にいただくと幸いです。

## ＜制作意図＞

脳梗塞などでマヒの後遺症が残った方や、高齢のため身体の機能が衰えた方は、ともすれば、身体を動かさないことによる全身の機能と精神活動の低下により、いわゆる廃用症候群に陥りがちで、生きる意欲の低下にもつながって行きます。

こうした方々も、関係者の適切なアセスメントと、それに基づいたリハビリテーションによって、歩く機能を取り戻すことが可能となります。

歩く機能が維持できれば、日常の生活でも必要な移動手段を確保することが出来、QOLの向上、寝たきり防止にもつながります。

今回の作品は、マヒの障害を持った高齢者が、介護老人保健施設から在宅へのプロセスの中で、PT、OTなど関係者のアセスメントを受け、自立歩行のための長期的な目標を設定する過程、そして、退所後の通所・訪問リハビリによって、杖を使って屋外の散歩が出来るまでに回復する過程を追って紹介します。

また、その中で杖を使った歩行介助の技術的な問題にも触れ、初めて介護に当たる方や家族の方々にも理解して頂けるよう、具体的に分かり易く描いた作品にしています。

歩くことは、自立への第一歩なのです。

## ＜内 容＞

### プロローグ

#### ○歩くことが自立の第一歩

- ・介護予防とリハビリテーションの意義
- ・高齢者生活福祉研究所 加島守所長のお話

#### ○室内での歩行 自宅でのリハビリ

- ・訪問リハビリによる歩行訓練
- ・PTによる家族への歩行指導
- ・二動作歩行



#### ○階段の上り下り

- ・訓練用の階段を使って
- ・施設の階段での訓練



#### ○屋外での歩行

- ・外に出て、自分の足で歩く喜び



### 事例

#### ○小島茂雄さんの自宅に帰るまでの経過

- ・脳梗塞発症からリハビリへ
- ・施設内におけるリハビリ（平行棒／四脚杖）
- ・中間評価 リハビリテーションの目標の設定
- ・退所前のアセスメント



#### エンディング

- ・自立のため、積極的に歩く練習に取り組もう
- ・歩くことが自立の第一歩

協力 医療法人社団 福寿会 介護老人保健施設 しらさぎ ●小島茂雄

理学療法士 仙波 崇

理学療法士 神尾有希

支援相談員 中土博志

阿部絳子

スタッフ 製作 横川元彦

プロデューサー 京極宣暎

監督・撮影 福井久彦

撮影助手 玉手久也

製作主任 横川幸彦

監修・指導

高齢者生活福祉研究所 所長  
理学療法士

加島 守

## ＜主なる対象＞

介護福祉士・ホームヘルパー・ケアマネージャー・訪問看護師・介護老人保健施設・福祉用具供給事業者・介護実習普及センター・在宅介護支援センター・地域包括支援センター・施設職員初任者研修・社会福祉協議会・福祉用具レンタル事業者・ホームヘルパー養成研修機関・福祉系大学専門学校・PT・OT養成機関・老人クラブ・リハビリテーション利用者一般家庭の介護者など。

企画・製作・問い合わせ

## 東京シネ・ビデオ株式会社

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-8-8

ちばやビル6F

電話 03-3242-3151 fax 03-3242-3182

<http://www.tokyocine-video.co.jp/>

E-mail: [info@tokyocine-video.co.jp](mailto:info@tokyocine-video.co.jp)